

The Practice of Biliary Surgery
GABRIEL A. KUNE
AVNI SALI

「胆道の外科」

原著第2版

中日病院・外科医長 澤田誠之 訳
帝京大学教授・溝口病院外科 山川達郎
元杏林大学教授・外科 相馬 智

久留米大学助教授
中山和道

オーストラリアのメルボルン大学
医学部外科の Gabriel A. Kune 教
授, Avni Sali 助教授の著書である
「The Practice of Biliary Surgery」
の訳書である。

Gabriel A. Kune 教授は現在な
お 40 歳代という新進気鋭, 篤学の外
科医であり, 1981 年 2 月, 第 17 回
日本消化器外科学会総会(会長土屋
涼一教授)で surgical intervention
in acute pancreatitis という題で,
すばらしい特別講演をされたことが
私の脳裡に焼き付いている。

これまでに出版された多くの類似
の訳書は, “挿し絵がきれいだなあ”

と思うぐらいで, その内容は一般的
で極めて大まかなものばかりであっ
た。本書はこれまでの類書とは異な
った新鮮さがあり, 簡単な記述であ
りながら, 含む内容は豊富であり,
要点を実によくまとめている。

外科的解剖, 応用生理も必要最小
限に見事に整理されており, 検査法
は現在用いられている各種の術前・
術中検査法はすべて網羅しており,
それぞれの検査法に対する評価も
行われている。

治療面では治療法相互の間にまだ
議論のある場合には, それぞれの長
所・短所をその根拠と共に示し, そ

のうえに著者が最適と考える治療法
を呈示してある。

更に本書の特徴として単に過去の
知識・概念に追従することではな
く, 常に問題意識と批判的な目を失
わない, 自らの主張ある本であると
いう点で驚かされた。

通読して唯一少々物足りなさを感じ
たのは胆道腫瘍の治療法の項のみ
であった。

このようなすばらしい訳書ができ
たのは, 訳者の澤田誠之博士(中日
病院, 外科医長, 元名古屋大学講師),
山川達郎教授(帝京大学)が本邦胆
道疾患のエキスパートで, しかも日
本の外科医の中で最も英語が堪能な
方であるということに負うところ多
大である。この類書では No. 1 の
折り紙を付けたい。

本書は外科医, 内科医, 放射線科
医, 卒後研修医の日常臨床や勉学の
伴侶として是非ともお薦めしたい書
で, また, 広く国際的視野でみた胆
道疾患, 胆道外科の現況を知るうえ
で大いに参考となる本である。私も
常に座右に置いている書の 1 つであ
る。

B 5 判 358 頁 16,000 円 送料 400 円
1986 年 医学書院 刊